

かけはし

第82号 平成20年6月5日発行
千代田区教育委員会
<http://www.city.chiyoda.lg.jp/>



「夢の課外授業」(番町小学校)での
古田敦也(東京ヤクルトスワローズ前監督)さんの指導

主な記事

- ★ 講演会「青少年のこころとからだ」
- ★ 平成20年度教育費予算概要
- ★ 千代田区立教育研究所

EMS 508362/ISO(JISQ) 14001



写真：千代田区教育委員会
千代田区広報広聴課

教育委員紹介

3月31日付で教育委員会は左記の構成になりました。千代田区における多くの教育課題に一生懸命取り組んで参ります。



教育委員長

近藤 明義



教育委員長職務代理者

市川 正



教育委員

堀口 雅子



教育委員

福澤 武



教育委員（教育長）

若林 尚夫

麴町保育園は仮園舎に移転しました

老朽化による建て替えを計画している麴町保育園（一番町4）は、旧土木事務所三番町分室跡地（三番町7）に仮園舎を建設し、平成20年5月7日から仮園舎での保育を開始しました。

仮園舎は、鉄骨造2階建・延床面積845㎡（移転前586㎡）で、各保育室は移転前と比較し1.3倍から1.5倍程度広くなりました。園児たちは「ひろくなったね」とおもちゃやブロックを広げて楽しそうに遊んでいます。専用の園庭はありませんが、仮園舎の屋上をはじめ近隣の「東郷公園」や「お日さま広場」を活用しながら屋外保育を進めていきます。夏には屋上でプール遊びも行う予定です。

なお、新園舎の整備については、保護者や地域の方々のご意見やご要望をお聞きしながら進めていきます。



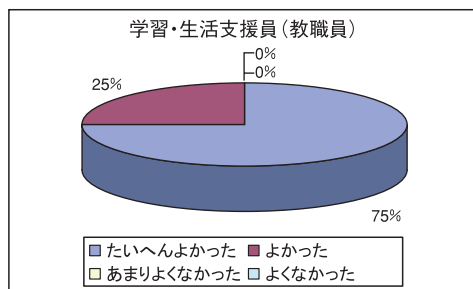
平成19年度 教育委員会（育成・指導課）の事業評価 の集計結果を円グラフにまとめてみました。

第81号（平成20年3月31日発行）でお知らせした、教育委員会で実施している事業に対する評価結果の中から、主なものを抜粋して、下記のような円グラフにまとめました。詳しくは、区のホームページ（<http://www.city.chiyoda.lg.jp/>）で御覧になれます。

なお、教育委員会（育成・指導課）は、これらの評価結果をもとに学校・園とともに改善策を実施し、各事業の一層の充実を図ってまいります。

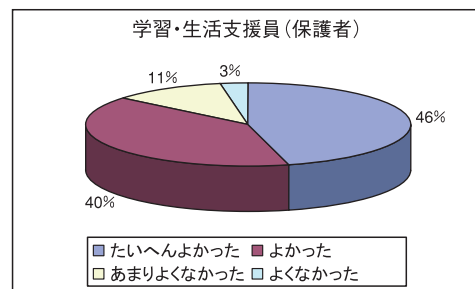
（教職員）

学習・生活支援員【幼稚園】

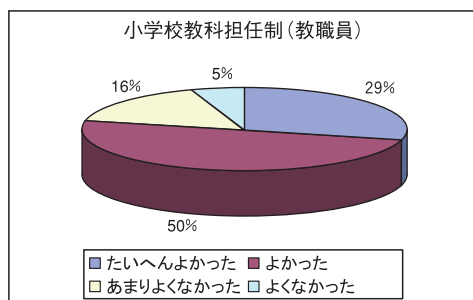


（保護者）

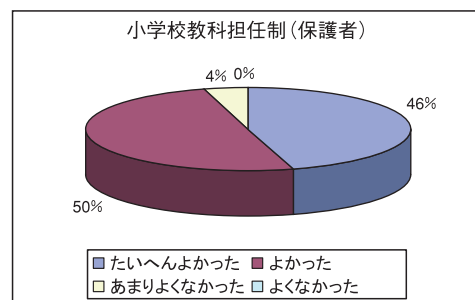
学習・生活支援員【幼稚園】



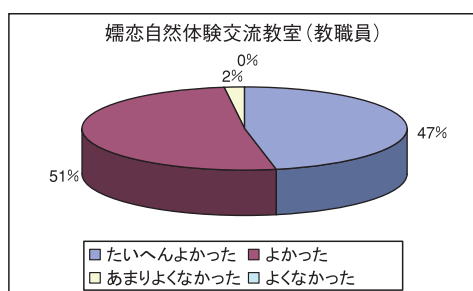
小学校教科担任制【小学校】



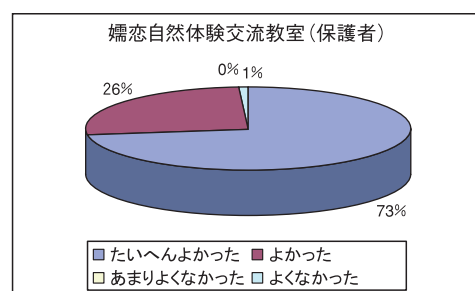
小学校教科担任制【小学校】



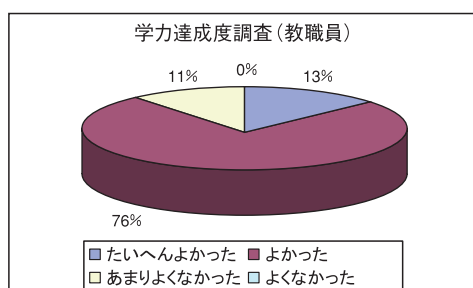
孺恋自然体験交流教室【小学校】



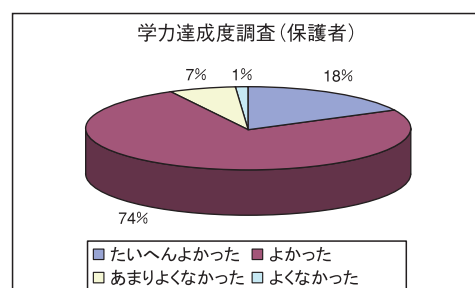
孺恋自然体験交流教室【小学校】



学力達成度調査【中学校・中等教育学校】



学力達成度調査【中学校・中等教育学校】



からだ」の講演会

こどもと性に向き合いませんか

路野富子さん



家族の健康管理をするのは、母親の役割が大きいと考えます。家庭で安心してくつろげる場を提供していくこと、親子の会話が深いほど初交年齢も引き上げられるということです。今、いろんな意味で性被害が出ていますが、加害者にも被害者にもならないように、子どもたちに具体的な回避方法、予防方法をきちんと理解させて、子どもたちを守るということが親の役目ではないかと考えています。子どもからの性に関する質問にも、家庭できちんとどういうふうに答えるかを事前に準備することも必要ではないでしょうか。

生まれてからすぐ始まる子どもとの多様な触れ合いを通じて、母親を信頼できる人と感じて、人間を信用する態度になるわけですから、子育てをきちんとしていくことがその後の子どもとの関係にも大切となっていきます。家庭での年齢や発達に応じた性の健康管理の実践が重要ではないでしょうか。

お二人からは、性情報など子どもたちを取り囲む現状や正しい情報を伝えるための保護者と子どもへの性についての学



習の必要性、性感染症の恐ろしさ、家庭での年齢に応じた性教育の必要性、日常からの親子の会話の必要性など、第一線で活躍する方ならではの貴重なお話を聞くことができました。

— 青少年地区委員会の活動とは —

区内4警察署（麴町・丸の内・神田・万世橋）の管轄地域ごとに設置し、青少年の健全育成に関係した講演会の開催や地域ごとのパトロール活動、青少年ハンドブック作成など、地域の実態にあった活動を行っています。

現在、約120名の委員のみなさんが活動しています。

「青少年のころと

千代田区青少年対策地区委員会では、平成20年1月23日（水）に「青少年のころとからだ」をテーマにした講演会を開催しました。

今回は、堀口雅子さん（性と健康を考える女性専門家の会・会長、産婦人科・医師、千代田区教育委員）と路野富子さん（助産師、日本助産師会相談役、思春期・更年期相談員）から、～診療の場から保護者たちに伝えたいこと～について、お話がありました。

会場となった千代田区役所1階区民ホールには、区立学校の保護者や学校関係者など約100名の参加がありました。

今回の紙面では、そのごく一部を紹介します。

講演会の内容は、区のホームページでご覧になれます。ぜひ、ご利用ください。

産婦人科医の立場から

堀口雅子さん

今、性の正しい科学を正しく学び伝えることが、いろいろと誤解され、対応が難しくなっています。

そこで大切なのは保護者の皆さんです。

しかし、現代の性に対する問題を知らないことが多いのが現状です。

現状は、初交年齢の低年齢化で、16歳くらいでの性行為が多く見られる状況となっています。

今の母親の年代は、「できちゃった婚」など自分たちの経験から、妊娠や避妊についての注意はできても、性感染症のことは全然頭にはないわけです。しっかりと勉強してほしいと思います。

性感染症は、病気をもらおうと膀胱炎がひどくなるとかだけではなくて、将来赤ちゃんがほしいときに妊娠できなくなったり、流産したり、赤ちゃんが感染を起こして肺炎になったりして、一生何か背負っていかなければならなくなってしまう。今の自分の行動が大切なことを知ってほしいと思います。

お母さんのお腹の条件がいいから、良い赤ちゃんが生まれる。良い学童期があるから、良い思春期があり、良い大人になっていく。更年期も勉強しているから、骨粗しょう症なんかで寝たきりにならない。いつも「今」が過去の集積であって、未来の布石であることを知り、今を大切にしてほしいと思います。



平成20年度千代田区教育委員会 教育目標（概要）

千代田区教育委員会は、「千代田区新世紀構想」に示された基本理念である「都心の魅力にあふれ、文化と伝統が息づくまち千代田」の実現を目指し、未来を担うこどもたちに対して以下に示した人間像の育成に向けて教育を推進します。

- 社会規範を身に付け、社会に貢献しようとする人間
- 個性を磨き、生涯を通じて学ぶ意欲と創造力をもった人間
- たくましく生きるための健康と体力を自己管理できる人間
- 豊かな心を備え、国際社会で活躍できる人間

また、就学前教育・学校教育さらにはそれらを含む生涯教育を充実し、誰もが生涯を通じて主体的に学ぶことのできる生涯学習社会の実現と他者や社会、自然や環境と共に生きる共生社会の実現を図るとともに、受け継がれてきた伝統文化を育てながら、千代田区らしい新たな文化の創出に努めます。

そして、教育は、家庭、学校及び地域社会のそれぞれが責任を果たし、連携して行われなければならないとの強い認識に立ち、すべての人々が教育に参加することを目指します。

教育目標を実現するための基本方針（概要）

【基本方針1 人権尊重の精神と豊かな人間性をはぐくむ教育の推進】

すべての大人、こどもが人権尊重の理念を正しく理解し、豊かな人間性をはぐくみ、他人を思いやる心、規範意識や社会生活上のルールを守るなどの社会性を身に付けられるよう、人権教育及び心の教育を充実するとともに、社会性・公共の精神をはぐくむ教育を推進します。

【基本方針2 学ぶ意欲と創造力を伸ばす教育の推進】

生涯を通じて自ら学び、自ら考え、自ら行動して、創造的に自己実現を図り、充実した生き方ができるよう、基礎的・基本的な学習内容と学習意欲を重視し、探究心や発想力、創造力など幅広い確かな学力が定着できる教育活動を推進します。

【基本方針3 たくましく生きるための健康・体力を培う教育の推進】

自らの健康に関心をもち、「生きる力」の重要な要素である、健康や体力について自己管理できるようにするために、あらゆる機会に健康教育を推進します。また、人々が生涯にわたり自ら学び自己実現を図ることができるよう、様々な学習機会を通じて、文化芸術やスポーツに親しめる活動を推進します。

【基本方針4 社会の変化に対応できる力を育成する教育の推進】

国際化、情報化の進展、地球環境の悪化などめまぐるしく変化する現代社会において、世界の人々と積極的に対話し、自ら課題を乗り越え、世界を舞台に行動できるよう、国際教育をより一層充実し、こどもたちに国際人としての広い視野と共生の精神をはぐくむとともに、情報教育や地球温暖化を視野に入れた環境教育の一層の推進を図ります。

【基本方針5 教育施設と地域社会の連携及び家庭教育の充実】

家庭は教育の原点であり、すべての教育の出発点であることを基本に、学校をはじめとする教育施設と家庭・地域社会の協働を通して、都心千代田にふさわしい魅力ある教育環境づくりを推進するため、大学や企業・NPO等との緊密な連携・協力のもと、地域に根ざし区民の期待に応えられる、開かれた学校・園運営を展開します。

平成20年度 こども・教育費予算

総額 八八億八、四二七万円

- 1 地域・家庭・学校が連携して、次代を担う人材の育成に取り組みます。
- 2 子どもを育む環境の整備に取り組みます。
- 3 子どもと親が共に育まれるよう地域全体であたたかく支えます。
- 4 文化遺産の保存・継承・活用を図ります。

1 地域・家庭・学校が連携して、次代を担う人材の育成に取り組みます

【新規】

共育マスタープランの策定

予算額六、〇〇〇千円

〈こども・教育部こども総務課〉

教育委員会事務局は、平成19年度から次世代育成部門との組織統合を行い、0歳から18歳までの子どもに関わる様々な施策を、教育・福祉の枠組みに捉われず、効率的に執行する組織としました。

平成20年度は、福祉の子育て施策と学校教育とを一体的に捉え、行政と、家庭、地域、学校が連携して「共に育む」ための効果的な方針を策定します。

【新規・独自】

健康・食育・体力向上プラン

予算額五、三四七千円

〈こども・教育部育成・指導課〉

個に応じた適度な運動と休養、そして適切な栄養の摂取により、知・徳・体のバランスがとれた児童・生徒を育成するため、スパーバイザーなどの専門家を小学校・中学校・中等教育学校へ派遣し、体力・運動能力の個人別データや、生活習慣についての状況等から、児童・生徒や保護者、部活動、学校全体に運動分野・栄養分野のアドバイスや指導を行います。

【新規】

委員会活動の点検・評価

予算額一、四七三千円

〈こども・教育部こども総務課〉

【拡充】

幼稚園・こども園・小学校国際教育

予算額一九、七三八千円

〈こども・教育部育成・指導課〉

国際的視野を広め、国際性豊かな幼児・児童の育成を図るため、外国人講師と担任のティーム・ティーチャングによる英語に親しむ活動を行います。

平成20年度は、基本的に小学校1～2年生は年6回、3～4年生は年12回、5～6年生は年35回行います。幼稚園は年6回です。なお、富士見幼稚園・

小学校と千代田幼稚園・小学校は国際教育推進校のため、幼稚園は年16回、小学校1～4年生は年17～35回実施します。

【拡充】

発達支援・特別支援教育推進協議会

予算額三、〇六四千円

〈こども・教育部育成・指導課〉

「千代田区発達支援・特別支援教育推進協議会」を設置し、千代田区において実施している発達支援事業と特別支援教育の検証及び課題整理を行います。また、中学校以降の生徒に対する支援のあり方を検討し、一層の推進をめざします。

【拡充】

学校図書（小学校）

予算額二三、五〇〇千円

学校図書（中学校）

予算額二、九〇〇千円

学校図書（中等教育学校）

予算額二、九六〇千円

〈こども・教育部こども支援課〉

区では、平成18年度に「千代田区子ども読書活動推進計画」を策定し、積極的な読書活動の推進に取り組んでいます。また、平成19年度には、全国でも初めてとなる幼稚園や児童館等への司書派遣を実施し、蔵書資料の選定支

援や図書室運営の支援を行っています。

平成20年度は、小中学校の図書室における蔵書資料の充実を図ります。また、司書派遣の回数を、平成19年度の週1回から週3回に拡充します。

2 子どもを育む環境の整備 に取り組みます

【新規】

麴町中学校の整備

予算額四三三、六三三千元

新校舎整備

予算額一五九、五六二千元

解体工事

予算額一五三、七四〇千元

仮校舎整備

予算額 九五、三七〇千元

〈こども・教育部こども施設課〉

物品等移設

予算額 一三三、九六〇千元

〈こども・教育部こども支援課〉

老朽化した麴町中学校を建替え、教育環境の整備を図ります。

平成20年度は、建設協議会の意見を踏まえ、仮校舎への移転、旧校舎の解体、新校舎の基本設計及び実施設計を行います。

なお、麴町中学校の仮校舎は、現6号館及び旧永田町小学校を使用します。

【継続】

番町小学校耐震補強工事

予算額一七〇、八四五千元

〈こども・教育部こども施設課〉

老朽化した校舎を改修し、安全で安心して学ぶことができる教育環境を実現するとともに、地域の核となる避難所施設としての機能を高めるため、耐震補強工事を行います。

工事は3か年計画であり、平成20年度はその最終年度にあたります。

○平成18年度耐震補強基本設計を実施

○平成19年度耐震補強実施設計、工事を実施

○平成20年度耐震補強工事を実施

【継続】

（仮称）富士見こども施設整備

予算額 二二、一四〇千元

〈こども・教育部こども施設課〉

富士見小学校・幼稚園の改築に際して、地域開放を前提に、0歳～18歳未満の児童を対象とした『総合こども施設』を整備します。

整備にあたっては、地域において児童を総合的に育み、のびのびと健やかな子どもの成長を支援するため、「小学校」「こども園」「児童健全育成機能」を一体的な施設として計画しました。

施設全体で児童の健全育成を図るなど、

自治体としては前例のない、『総合こども施設』として整備します。

なお、竣工は平成22年1月、開設は平成22年4月の予定です。

【継続】

麴町保育園舎整備

予算額一四、二二四千元

新園舎整備支援

予算額 七、四四三千元

〈こども・教育部こども施設課〉

物品等移設

予算額 六、七七二千元

〈こども・教育部こども支援課〉

昭和39年に竣工され、老朽化が進んでいる麴町保育園を建て替えるため、仮園舎へ移転します。また、新園舎の整備について、検討を進めます。

なお、神田保育園については平成20年度に仮園舎の整備を進めます。

【継続】

施設改修（小学校）

予算額一九六、八五〇千元

施設改修（中学校）

予算額 一五、五〇〇千元

施設改修（児童施設）

予算額 四〇、五五六千元

〈こども・教育部こども施設課〉

平成20年度は、主に以下のような学

校及び児童福祉施設の環境整備を行います。

《小学校・幼稚園》

○パークサイドプラザ「プールろ過装置改修」、お茶の水小学校・幼稚園

「外壁・プール改修工事」、千代田小学校「校庭改修工事」、神田さくら館「自動制御装置改修工事」、和泉小学校「校庭整備」

《中学校》

○神田一橋中学校「プールろ過装置交換修繕」、体育館屋根塗装工事

《児童館》

○一番町児童館「外壁補強工事」など

【継続】

コンピュータ教育（小学校）

予算額七九、四六一千元

コンピュータ教育（中学校）

予算額一九、八六七千元

〈こども・教育部育成・指導課〉

【継続】

コンピュータ教育（中等教育学校）

予算額二二、二六五千元

〈こども・教育部中等教育学校〉

小学校・中学校・中等教育学校の情報化を推進するため、光通信によるインターネット接続と校内LANの活用による情報教育の充実を図ります。

平成20年度は、小学校・中学校・中等教育学校のパソコン台数を増やし、

複数の学級で同時にパソコンを使った授業を行うことができるようにします。

3 子どもと親が共に育まれるよう地域全体であたかく支えます

【継続】

次世代育成支援の検討

予算額六、三三〇千円

次世代育成支援推進会議

予算額五、五〇九千円

理念検討会議

予算額 八二一十千円

〈いづも・教育部こども総務課〉

平成17年5月、千代田区は「千代田区次世代育成支援推進会議」を設置し、「千代田区次世代育成支援行動計画（前期行動計画）」に示された各施策の評価や拡充、新規施策の検討、企業への働きかけ、さらに、行動計画を進展させ、広く次世代の健全育成を考えていくための施策を展開してきました。

平成20年度は、次世代育成支援推進会議において、平成22年度から平成26年度までの行動計画（後期行動計画）を策定するための検討を行うとともに、「千代田区次世代育成の理念を考える検討会議」で、千代田区の次世代育成支援の礎となる理念について、一定の方向性を取りまとめていく予定です。

【拡充】

認証保育所補助金

予算額三四〇、〇八四千円

〈いづも・教育部こども支援課〉

認証保育所は、東京都独自の認証基準により保育の質を確保しながら、0歳児保育や長時間保育など多様化する保育ニーズに応える新しいタイプの保育所です。

各事業者に対しては、運営補助のほかにかに家賃助成を行っています。保護者には認証保育所を利用しやすくするため、認可保育園よりおおむね2割安くなるよう保育料の補助を行っています。平成20年度は、従来に加えて、さらに新規で1園開設する予定です。

【新規】

いずみこどもプラザ

（拡大型一時預かり保育）

予算額三、一五二千円

〈いづも・教育部児童・家庭支援センター〉

従来、各児童館において実施している一時預かり保育のサービス内容を拡充した事業を、ちよだパークサイドプラザにおいて試行します。

【拡充・独自】

放課後子どもプラン

予算額三三二、四五〇千円

放課後子ども教室

予算額二二二、二八三千円

〈いづも・教育部こども総務課〉

学校内学童クラブ

予算額二二〇、一六七千円

〈いづも・教育部児童・家庭支援センター〉

全ての小学校において、放課後の子どもの安全で健やかな活動場所を確保し、総合的な放課後対策を行うための「放課後子どもプラン」を実施しています。これは、授業が終わった後も、子どもたちが小学校で学びや遊び、体験活動ができる「放課後子ども教室」と、保護者の就労等によりお子さんをお預かりする「学童クラブ事業」を実施するものです。

また、「学校内学童クラブ」は、これまで、学校施設を活用した民間事業者による学童クラブ「アフタースクールすきつぷ」として、麴町・番町・千代田の3小学校で実施し、民間のノウハウや発想を生かした全国的にも極めて珍しい手法の事業です。

なお、学童クラブを含め児童館の運営についても、抜本的な見直しを行います。

【拡充・独自】 保育園等保育料

〈いづも・教育部こども支援課〉

定率減税の廃止など、税制改正による保育園等保育料への影響を抑え、前年度と所得が変わらなければ保育料の

変更もないように保育料算定基準を変更します。

また、平成19年度までは2人以上の児童が保育園、こども園に在園している場合には、保育園保育料の軽減措置を講じていました。平成20年度からは第1子が幼稚園に在園している場合の第2子以降の保育園保育料、さらには幼稚園保育料にも軽減措置を拡大適用します。

4 文化遺産の保存・継承・活用を図ります

【新規】

史跡江戸城外堀跡の整備・活用の推進

予算額三、九八〇千円

〈区民生活部文化スポーツ課〉

旧江戸城外郭内に位置する千代田区は、国特別史跡江戸城跡、国史跡江戸城外堀跡など、近世城郭としては世界最大規模の文化遺産が良好に残されています。

区では、この史跡をその価値にふさわしい形で保存し、整備・活用を図るための「江戸城外堀跡保存管理計画」を策定しました。史跡江戸城外堀跡に関する説明板の設置やガイドパンフレットの作成などにより周知を図ります。

小学校外国語活動に活用できる

情報資料の収集に努めます



教育研究所情報資料室では、小学校外国語活動の実践に取り組んだことのある全国の小学校や教育研究機関から、その在り方に関する研究紀要や実践事例・学習指導案集等を精力的に収集し、区内各小学校の先生方がいつでも見られるように整理保管をしています。

なお、これまで教育研究所で収集保管してきている小学校外国語活動に関する研究冊子・資料等には次のようなものがあります。

研究紀要・資料等

- 「東京都外国語教育問題懇談会報告書」平成7年3月：東京都外国語教育問題懇談会
- 「小学校への英語教育導入に関する考察」平成8年3月：福岡県教育センター
- 「小学校英語活動の指導法の研究と活動事例」平成14年度：西宮市立総合教育センター
- 「積極的にコミュニケーションを楽しむ
英語活動の実践研究」平成18年3月：姫路市立教育研究所
- 「だれでもできる！小学校英語活動」平成17・18年度：相模原市立総合学習センター研究集録
- 「子どもの心を広げる
～ドラマ的な活動を取り入れた小学校英語活動～」2006年：藤沢市教育文化センター

一般出版物・刊行物等

- 「文部科学省著 小学校英語活動実践の手引」平成13年：開隆堂出版株式会社
- 「BERD」2006 No.05
(特集「小学校からの英語導入で子どもたちをどう育てるか」) : ベネッセコーポレーション
- 「速報版第1回小学校英語に関する基本調査[保護者調査]」2007年2月：Benesse教育研究開発センター
- 「教育時報」平成18年No.10(特集「小学校英語教育」) : 財団法人学校教育研究所
- 「研究所報」VOL.41
(第1回小学校英語に関する基本調査[教員調査]報告書) 2007年3月：Benesse教育研究開発センター
- 「研究所報」VOL.42
(第1回小学校英語に関する基本調査[保護者調査]報告書) 2007年6月：Benesse教育研究開発センター



教育研究所の外国語（英語）活動実践に活用できる蔵書類は、区内各校に貸し出しをしています。が、学校関係者以外の方々の閲覧希望にも応じますので教育研究所までお問い合わせください。

〒101-0048 千代田区神田司町2-16 神田さくら館7階
Tel 3256-8446 Fax 3256-8166

千代田区立教育研究所は、

千代田区の教育の充実・振興を図ることを目的として設置されています。この趣旨に沿って、今年度も、教育研究所では主として次のような事業を行います。

○授業の腕を磨く区内の学校・園の先生方を応援します。

今年度も教育研究所では、区立の幼稚園・こども園や小・中学校を訪問し、先生方の授業参観をして授業の進め方等の助言をしたり相談に応じたりしていきます。

○研究資料・文献等の収集に努めます。

教育研究所では今年度も全国の学校や研究機関から研究紀要・資料等を収集し、研究所内情報資料室に整理・保管し、どなたでも閲覧できるようにしていきます。

○教育課題について調査研究をします。

教育研究所では例年、千代田区立学校・園の先生方の何人かに調査研究員を委嘱し、区の学校・園が直面している教育課題を取り上げ、それについて年間を通した調査研究を行ってきました。今年度も、今日の教育課題を取り上げて調査研究を行い、その結果をまとめ、各校・園の課題解決に活用できるようにしていきます。



今年度、千代田区立教育研究所は千代田区が独自にスタートする

充実した小学校外国語(英語)活動の推進

を重点テーマにして事業を進めます。



2011年度から完全実施される小学校の新学習指導要領に新たに「外国語活動」が入って、小学校5・6年生には2年間で合計70時間ほどの外国語活動がなされることになりました。

コミュニケーションへの積極的な態度を育成し、言葉への自覚を促し、幅広い言語に関する能力や国際感覚の基盤を培う、この外国語活動は、全国的には来年度から移行措置として指導が始まります。



〔平成20年2月富士見小学校にて〕

そこで教育研究所では、「小学校外国語活動の指導法」について調査研究をすることにしました。

教育研究所では、千代田区国際教育推進協議会の先生方に、調査研究員を委嘱して今年度1年間、直面する教育課題として小学校の外国語(英語)活動の在り方を取り上げ、調査研究に取り組むことになりました。

A L T (外国語指導助手)と学級担任の先生との協力教授の在り方、外国語(英語)活動の年間指導計画の立て方等について調査研究を行い、区内各小学校の充実した外国語(英語)活動の展開に寄与したいと思っています。

教育委員会・教育委員会事務局の組織をお知らせします。

小中学校・幼稚園の運営、保育園・児童館・学童クラブ、手当・医療費助成など0～18歳までの次世代育成政策を、教育・福祉といった枠組みに捉われることなく、総合的・一体的に推進するため、こども・教育部を設置しています。子どもの視点に立ち、一人ひとりの成長過程に沿った支援を途切れることなく、継続的に行っていく組織です。

